未来都市創造に関する特別委員会行政調査報告

未来都市創造に関する特別委員会委員長　山本のりかず

１．日程

令和４年 12 月 12 日（月）～13 日（火）

２．調査項目・場所

（１）12 日（月）午後２時～４時　広島電鉄株式会社本社（広島市）

①「広島版 MaaS『MOBIRY（モビリー)』」について

②「街のガイドブックアプリ ekinote（エキノート)」について

③「被爆電車運行プロジェクト」について

（２）13 日（火）午前９時 30 分～11 時　まちなか西国街道推進協議会（広島市）

④「西国街道の歴史と文化を活かした新たな賑わいづくり」について

（３）13 日（火）午後３時～５時　株式会社 NOTE（丹波篠山市）

⑤「地域に眠る歴史資源を活かしたまちづくり」について

⑥「各事業体の役割・取り組み」について

３．委員長所見

①「広島版 MaaS「MOBIRY（モビリー)」について

広島電鉄では、MaaS（マース）の取り組みとして、スマートフォンで乗車券を購入・使用できるデジタルチケットサービス「MOBIRY（モビリー)」を開始している。前提として、MaaS（マース）とは、「Mobility as a Service」の略で、従来の交通手段・サービスに自動運転や AI などの多様なテクノロジーを掛けあわせた次世代の交通サービスをいう。チケット購入に際しては、インターネットにてエリアごとにデジタルチケットを販売しており、クレジットカード決済を完了すれば購入することができる。利用する際は、携帯画面上の乗車券を乗務員に提示すれば、降車できる仕組みとなっている。

神戸市交通局では、「PiTaPa」を中心に IC カードの普及促進に取り組んできた。加えて、他社鉄道連絡 IC 定期券の発売範囲の拡大、市バス交通系 IC カード全国相互利用サービスの開始などを進めてきたが、携帯アプリによる乗車券購入にまでは至っておらず、今後の検討課題であろう。単独でシステム導入を図るよりも、他社で先行している事例があるならば共同利用で運用していく方法を検討することも必要である。

さらに、交通系 IC カードとマイナンバーカードを連携していくことで、カードの利便性が高まり市民サービスの向上につながっていくという他自治体報告もあり、神戸市でも調査研究していくべき課題であると認識した次第である。

②「街のガイドブックアプリ ekinote（エキノート）」について

2022 年に三菱電機株式会社が開発したガイドブックアプリ「ekinote（エキノート）」について三菱電機担当者からリモートにて説明を受けた。三菱電機は広島電鉄とも協働で地域観光や DX（デジタルトランスフォーメーション）の促進効果を検証している。当該アプリは、全国約 9,100 の鉄道駅を起点に、様々な情報カテゴリー、具体的には、交通・観光・グルメ・ショッピング・自治体情報等を一元化して、各駅や駅周辺の街の情報を提供するガイドブックアプリである。各委員の皆さんも早速ダウンロードし、説明を受けながらアプリを確認していた。駅の規模によっては、情報の多寡があるように思われるので改善の余地があると考える。ユーザーにとっては、多くの情報を得ることができ、有用性を感じることができる一方で、自治体にとっては経済観光や地域振興に役立てることが期待できる。

神戸市においても、当該アプリの運用状況を見極めながら、今後の活用方法を検討していただきたい。

※広島電鉄本社にて取り組み事例を調査

※ekinote(エキノート)のアプリ画面

③「被爆電車運行プロジェクト」について

プロジェクトの概要について説明を受けた後、広島電鉄本社隣の敷地にある車両庫を委員全員で現場視察させていただいた。新旧車両が入り混じっており、路面電車の歴史を感じた

次第である。特に神戸市電から広島電鉄へ移譲された２車両(582 号、1156 号)が現役で走行していることに感激した。現場の車両庫には 582 号があり、板張りの床が現存しており、当時の車両の雰囲気を再確認することができた。

神戸市電は 1910（明治 43）年に開業し、内装も華やかで車体の塗装には珍しい緑のツートンカラーを取り入れ、「東洋一の市電」と言われた。しかし、車社会の到来を受け、1971（昭和 46）年３月に全線廃止された。広島電鉄は、29 両を買い取り、広島市内での神戸市電車両の運行が開始された。

現場では、各委員の皆さんが外観や内部を確認し、広島電鉄担当者への質疑を積極的に行い、神戸での市政に反映できる政策を思考している様子であった。

神戸市では、現在 BRT (Bus Rapid Transit：連節バス) が走行し、LRT (Light Rail Transit：次世代路面電車システム) の検討も進んでおり、今後の議会での議論にも注目していきたい。

※神戸市交通局から広島電鉄へ移譲された神戸市電車両 582 号（右）

④「西国街道の歴史と文化を活かした新たな賑わいづくり」について

広島市内の西国街道は、政令指定都市である広島市の中心地、広島駅から、商店街や平和公園を通貫し、現在も日常的に利用されているにもかかわらず、「街道らしいまちなみ」が存在しない「見えない」街道となっていたと伺った。そこで、中心地の商店街店主らが集まり、2018 年に「まちなか西国街道推進協議会」が設立された。当該協議会は、広島駅周辺から八丁堀、紙屋町、平和記念公園をつなぐ西国街道を、後世へと伝えるべき文化と歴史を残す「まちなか西国街道」として、教育事業、賑わいづくり、周知事業などを行う市民団体である。

協議会が行政とも連携して、まちなか西国街道を「可視化」していっていることに感銘し、神戸市でもできるのではないかと感じた次第である。具体的には、「歩いてわかる見てわかる西国街道」に向けた取り組みとして以下を行っている。神戸市においても、市民の方々に西国街道を認知していただき、歴史的資源を活かしたまちづくりを行う上で、参考となり実行

できる要素があると感じた。

・西国街道ステッカー(2017 年制作)：街道沿いの商店を中心に配布・設置。
・西国街道案内板(2017 年制作)：広島駅前に、西国街道案内板を設置。
・西国街道デザインマンホール(2019 年制作)：市立大学デザインで市が設置。
・西国街道サインボード(2019 年)：交通局が制作・設置。

主な活動の一つで、次世代教育として、西国街道沿いの公立小学校を中心に、江戸時代の城下町について子どもたちに「出前授業」を行っており、2022 年度は５校で実施している。神戸市が実施している出前授業には、西国街道をテーマにしたものがないので、将来的に当該テーマでの出前授業を検討してみてはどうかと考える。

また、毎年３月 15 日を「西国の日」として、「江戸時代の広島城下へタイムスリップ」をコンセプトに祭りイベントを開催している。2019 年には広島城への浅野家入場 400 年を記念した入場行列や時代行列の運営サポートを行った実績もある。神戸市内にも西国街道があるほか、2022 年 11 月にオープンした兵庫津ミュージアムや花隈城など多くの関連施設や歴史的資源があり、兵庫県と神戸市が一体となって「賑わい」を創出していく必要がある。まちなか西国街道推進協議会の活動は非常に参考になった。

※まちなか西国街道推進協議会メンバーによる説明と西国街道ステッカー

⑤「地域に眠る歴史資源を活かしたまちづくり」について

広島の視察先から新幹線にて新神戸で降り立ち、バスにて丹波篠山市に到着すると、都会とは違う風景が一面に広がり、歴史的な雰囲気を感じる宿泊施設があった。そこは、株式会社 NOTE が運営する宿泊施設で、当該会社は 2009 年に丹波篠山市で一般社団法人として発足し、「なつかしくて、あたらしい、日本の暮らしをつくる」という理念のもと、地域に眠っている歴史的建築物の再生を通じた地域おこしの取り組みを行っている。神戸の中心地の風景

とは違うが、北区や西区とは通じるものがある地域だった。施設内を視察しながら、各委員からも積極的な質疑があった。私からも担当者に宿泊層の属性を確認すると、意外にも 20 代や 30 代の女性グループやファミリー層の方々も利用されていることを伺い、近代的なホテルに慣れ親しんでいる層の方々が、古民家という物珍しい宿泊施設に泊まり、日本らしい落ち着く空間だと肌で感じているのであろうと推測された。

※NIPPONIA 宿泊施設の視察

⑥「各事業体の役割・取り組み」について

株式会社 NOTE は、古民家等の歴史的建築物の活用をしながら、その土地の歴史を活かして、訪れる人が宿泊・田舎体験・短期滞在・長期滞在するなど街全体を観光資源にする取り組みを行っている。

私自身 NIPPONIA の存在を知っていたが、現在、南は沖縄から北は北海道まで全国 31 地域で幅広く展開されていることは知らなかった。主に中山間地域や平地農業地域で事業展開されており、都心部は数が少ない印象である。神戸のような土地でも事業展開していただきたいという意見が他の委員より出ており、将来的な可能性に期待している。里山地域に事業展開されているのであれば、地域の行事や村の清掃活動など都会にない活動に従事していく必要があるため、従業員は休日など都会に比べて自由な時間が取れず、どうしているのかという質問を投げかけると、弊社の従業員に応募してくる人はそのような活動も当たり前のことと考え、参加しているとの返答があり、自然に各地域に溶け込んでいるのであろうと思われた。

地域が活性化していくためにも、地域外からの若い方々の力は大変貴重である。一時的な活性化に終わらずに継続して地域が活性化し、それが根付いていくためには地域の方々と地域外から来た若い方々との協力関係は必須で、これから非常に大切な要素と考える。株式会社 NOTE での調査研究も踏まえて、神戸の未来都市創造のため委員会として提言していきたい。

※NIPPONIA 担当者による説明